

【C-2 美保基地配備記念式典 式辞】

本日ここに、内外から多数のご来賓並びに多くの関係者各位のご臨席を賜り、C-2 輸送機美保基地配備記念式典を挙行できますことは、航空自衛隊美保基地にとりまして誠に光栄であり、慶賀に堪えないところであります。

特に、本日ご来賓としてご臨席いただいております、赤沢亮正衆議院議員代理秘書・河上定弘様、青木一彦参議院議員代理秘書・周藤司様、舞立昇治参議院議員代理秘書・堀博之様、中村勝治境港市長、野坂康夫米子市長、松浦正敬松江市長代理能海弘明副市長、近藤宏樹安来市長代理井上博副市長におかれましては、常日頃より自衛隊美保基地の活動ならびに美保基地の安定的な運用に対する深いご理解とご支援・ご協力をいただき、大変感謝しております。

さらには、国防思想の普及と地域社会との連携強化による地域の発展を図ることを目的に、長年にわたり美保基地に対するご支援いただいております、足立統一郎美保基地協力会会長、児島和歌子鳥取県婦人防衛協会会長、渡邊俊之天馬美保基地協力会会長、藤堂重一美保航友会会長、吉岡元美保つばさ会会長、そして、国護りの神、大国主大神を祭神とする出雲大社から千家尊祐宮司、米空軍横田基地からも、第5空軍運用・計画部長のジャンソング大佐、第374医療群司令官のモンテヤノ大佐にも駆け付けて頂きましたことに、心よりの感謝を申し上げたいと存じます。

加えて、歴代の美保基地司令をはじめとします美保基地OB、さらには、わが国の航空・防衛産業の火を絶やすことなく日本の誇る技術を未来へ継承すべく、C-2輸送機の開発ならびに製造に携わりいただきました川崎重工業株式会社様をはじめとする航空・防衛関連企業の皆様方などなど、本当にたくさんの方々、本式典にご光臨賜り、この歴史的なC-2輸送機部隊配備の瞬間の喜びを共に分かち合えることに大きな感動を得ている次第であります。

さて、この度、待望のC-2輸送機が当美保基地に正式に配備をされ、自衛隊における新たな輸送機の時代が切り拓かれようとしています。

顧みれば、航空自衛隊の輸送機部隊は、昭和30年に米空軍から譲渡されたC-46輸送機をもって航空輸送任務を開始して以来、YS-11、C-1中型輸送機、C-130H戦術輸送機、B-747政府専用機、U-4多用途支援機、KC-767空中給油・輸送機等を導入し、航空自衛隊のみならず、全自衛隊の人員・貨物の空輸の重任を遂行するとともに、災害派遣に際しても既に昭和32年には諫早水害地への救援物資空輸や昭和33年には奄美大島での大火事に際して救援食料の空中投下、近年では阪神淡路大震災や東日本大震災時における救援物資空輸を昼夜分かたず行ってきました。また、国外に目を向ければ、平成以降、国際平和協力活動においては欠かすことのできない存

在として航空自衛隊の輸送機がその活動の一翼を担い、現在においては、わが航空自衛隊の航空輸送活動は、海外からも高い評価を得るまでに発展してまいりました。

これも、輸送航空団の前進である臨時立川派遣隊が昭和 30 年に発足以来、今日まで諸先輩方をはじめ、関係全隊員が「我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つ」という我々自衛隊に課せられた使命を強く自覚し、日々の訓練に真摯に向き合い、先輩・同僚・後輩と共に切磋琢磨し、永年にわたり精進を重ねてきた証左であると考えます。

そして、我々が訓練ならびに任務に思う存分その勢力を傾注できましたのも、基地周辺自治体ならびに基地周辺地域住民の方々の深いご理解と温かいご支援のもと、基地と地域とが一体となって共存し、共栄を図ってきたことの現れであると考えております。

その様な中、時の流れは早いもので、C-1 中型輸送機も、その初飛行からまもなく半世紀を迎えようとしております。現在の我が国を取り巻く安全保障環境は日々めまぐるしく変化をその厳しさはより一層増してきており、これまで経験したことのないような事がいつ起こってもおかしくないような時代へと突入してきております。国際情勢においては、特に我が国周辺の東アジア地域において、中国の海洋進出による現状変更の試みがその勢いを増し、北朝鮮においては核兵器やミサイル開発が着実にその能力を向上させつつあり、まったく予断を許せない情勢となってきております。また、国内においても自然災害はいつどこで起こってもおかしくない状況であります。

このような情勢の下、まさに我が国の平和と独立を守る自衛隊の総合力を発揮させるために、航空輸送力の強化は喫緊の課題であり、今後統合機動防衛力の構築を推進させていくなかにおいてもこのC-2型輸送機が果たす役割はとても重要なものであり、各種事態や災害等への迅速な展開・対処能力を確保するとともに、国際平和協力活動等における空輸任務を 1 日も早く行えるようにすることが期待されております。このように、平成 12 年からC-1 中型輸送機の後継機として我が国が開発した過去最大の航空機、この新たな新型輸送機C-2は、我々輸送機部隊のみならず、航空自衛隊、防衛省、そして我が国にとっても永年の悲願であり、夢であったわけであります。

そして今こうしてみなさまにその勇姿を、此処“ゆめみなと”の地でお披露目することが出来ますことを、大変嬉しく、そして感慨深いものを感じております。

ここ“ゆめみなと”こと、境港、並びに美保飛行場である米子鬼太郎空港は、わが国と世界をつなぐアジアへのゲートウェイであります。そしてこの度、美保基地もこの新型輸送機C-2の導入により、アジア太平洋地域の平和と安定、さらには世界の平和と安定への出発点として、この山陰の地をさらに内外に知らしめ、美保基地もその精強さを示していくこととなるでしょう。

美保基地の南にそびえる雄大な秀峰大山の如く、この大きなC-2も航空自衛隊の新たな未来、我が国の大いなる未来への架け橋として大きく羽ばたいていけるよう、そして、この第3輸送航空隊・美保基地が自衛隊の航空輸送のリーディング・エアリフト・

ウィングとなるべく、基地に所属する隊員一同が決して現状に満足することなく、飽くなき探究心と向上心を“不断”に追い求め、常に前向きに前進し続ける“不断前進”の気概を持ち続け、新たな輸送機時代の進むべき道筋をしっかりと作り上げ、1日も早く、国民の期待に応えることできる素晴らしい活躍が出来るC-2に、そして精強な第3輸送航空隊、美保基地であり続けられるよう、基地隊員はもちろんのこと、地域と一体となった“チーム美保”として頑張って参りたいと思います。

結びに、こうしてC-2輸送機美保基地配備記念式典が行えますことも、自衛隊創設以来今日に至るまで、汗にまみれ、油にまみれ、時には涙を流しながらも、伝統を継承してくださった多くの先輩方が居てくれたおかげであると思っております。

これまでの良き伝統を継承し続けることはもちろん、新たに創造されてきた伝統を継承し続けると共に、将来の環境変化にも更なる創造性をもって適応し続け、如何なる活動を実施するに及んでも、誠実かつ謙虚さを忘れず、決して驕らず、決して高ぶることなく、個々の隊員それぞれが、常に心身を鍛え、技能を磨き、国内外を問わず、祖国の平和、そして世界の平和のために貢献できるよう専心努力することをお誓いし、式辞といたします。

平成29年3月30日

第3輸送航空隊司令兼ねて美保基地司令

1等空佐 北村靖二